

# 令和4年度 学校評価の結果について（お知らせ）

## 1 協働型学校目標について

令和4年度は、以下のような目標を設定し、コロナ禍の中でも家庭、地域、学校それぞれの場で実践できるよう、具体的な手立ても共有して取り組みました。

- 【重点目標】 ○相手や場に応じた言葉遣いで話ができる子  
○進んで「あったか言葉」を使える子

※「できた」の達成状況90%超となる姿を目指す。

- 【到達目標】 ○思いやりを表現できる児童の育成

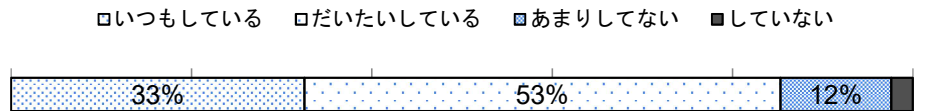
## 2 目標の達成度、結果について

児童・保護者・地域・教職員のアンケートをそれぞれ集約したところ、次のような結果となりました。

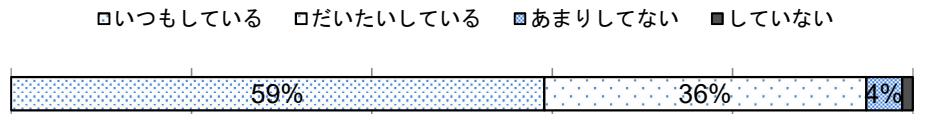
### ① 「相手や場に応じた言葉遣いで話ができる子」について

#### 【児童の結果】

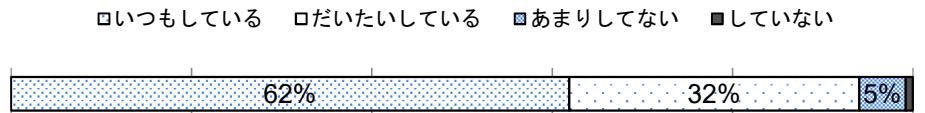
おうちで、相手や場に応じた言葉遣いで話をしている。



学校で、相手や場に応じた言葉遣いで話をしている。

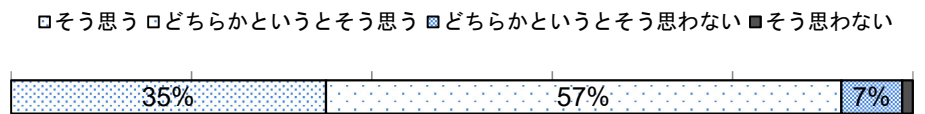


地域で、相手や場に応じた言葉遣いで話をしている。



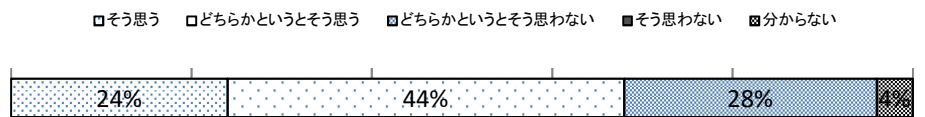
#### 【保護者の結果】

お子さんは、相手や場に応じた言葉遣いで話をしている。



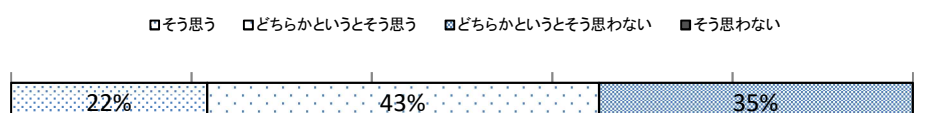
#### 【地域の結果】

児童は、相手や場に応じた言葉遣いで話をしている。



#### 【教職員の結果】

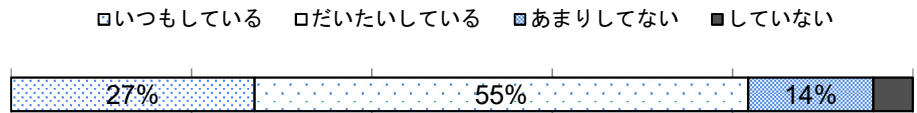
児童は、相手や場に応じた言葉遣いで話をしている。



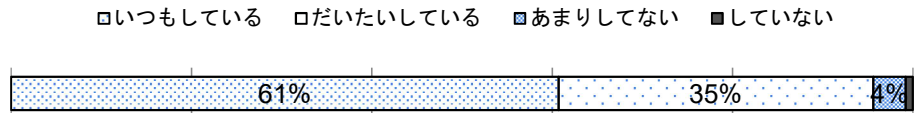
## ②進んで「あったか言葉」を使える子について

### 【児童の結果】

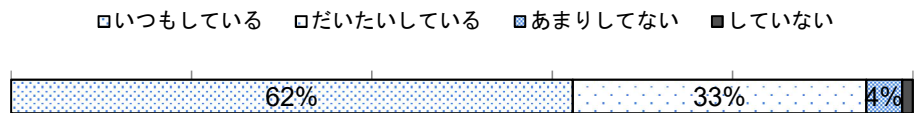
おうちで、「あったか言葉」を使って、話をしている。



学校で、「あったか言葉」を使って話をしている。

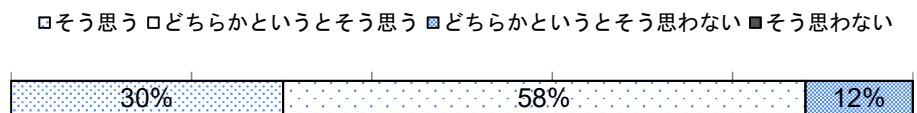


地域で、「あったか言葉」を使って、話をしている。



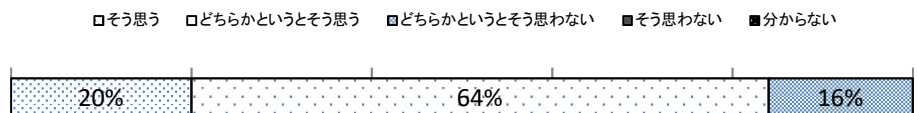
### 【保護者の結果】

お子さんは進んで挨拶したり「あったか言葉」を使って話したりしている。



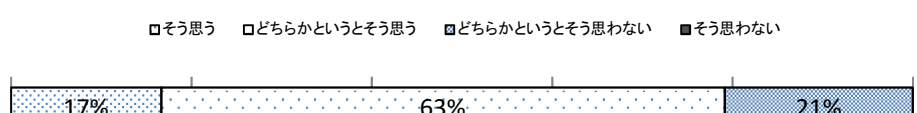
### 【地域の結果】

児童は、進んで挨拶したり、「あったか言葉」を使って話したりしている。



### 【教職員の結果】

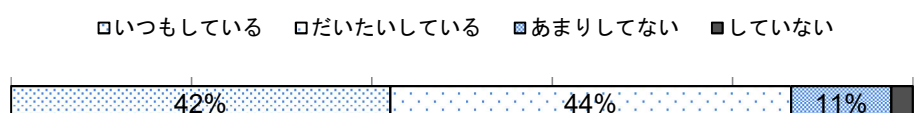
児童は進んで挨拶したり「あったか言葉」を使って話したりしている。



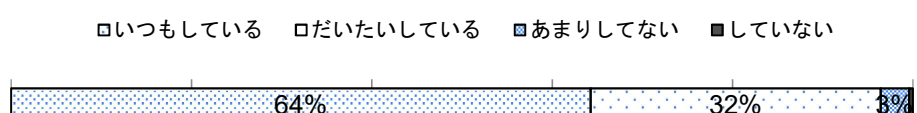
## ③思いやりを表現できる子について

### 【児童の結果】

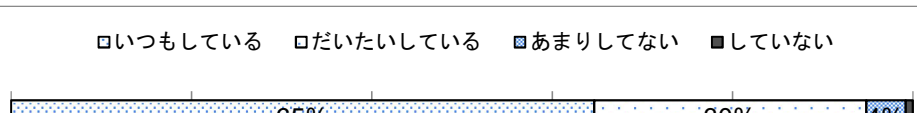
おうちで、思いやりをもって、生活している。



学校で、思いやりをもって、生活している。



地域で、思いやりをもって、生活している。



### 【保護者の結果】

お子さんは思いやりをもって生活している。

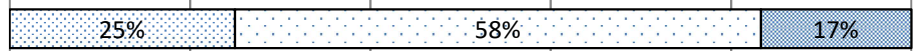
□ そう思う □ どちらかというと思う □ どちらかというと思わない ■ そう思わない



### 【地域の結果】

児童は、思いやりが感じられるような行動や会話の様子がみられる。

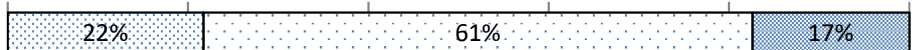
□ そう思う □ どちらかというと思う □ どちらかというと思わない ■ そう思わない ■ 分からない



### 【教職員の結果】

児童は思いやりをもって生活している。

□ そう思う □ どちらかというと思う □ どちらかというと思わない ■ そう思わない



「①相手や場に合った言葉遣いで表現できる子」については、地域や教職員の約30%が「どちらかというと思わない」と回答している一方、児童については約95%が「できた」と回答しています。ほとんどの児童は言葉遣いを意識した生活ができていますが、乱暴な言葉遣いや場にそぐわない話し方はどうしても強く印象に残ってしまいます。今後は、「あまりしていない」と答えた5%の児童に寄り添い、粘り強く「相手や場に合った言葉遣い」について声掛けをしていきたいと考えます。

「②進んで『あったか言葉』を使える子」の項目については、児童、保護者、地域、教職員で、80%~96%の範囲となりました。こちらもおおむね実践できていることが分かります。児童が家庭において「あったか言葉」を使っている項目が82%と昨年度の同項目に比べて3%増えました。家庭での声掛けや働きかけが結果として表れてきていると考えます。

到達目標である「③思いやりを表現できる子」の項目については、児童、保護者、地域、教職員で、83%~95%の範囲となりました。ただ、「どちらかというと思わない」の回答が保護者で12%、地域、教職員で17%と昨年と比べて増えていて、新たな課題となっています。

今年度はコロナ禍の中ではありますが、経験や人との関わりを通して子どもたちに体験的な学びの機会を設けることを意識して取り組んでまいりました。次年度も、児童の自主的・主体的な行動の中で「場に応じた言葉遣い」や「あったか言葉の使用」の更なる定着を目指してまいります。

## 3 児童の良さを引き出し、児童をよりよく育成するためのご意見や改善策等

※類似のものは一部まとめさせていただいております

### 【保護者】

- 自己肯定感を高めてほしいです。児童に関わる大人は子供達に自己肯定感を高める言葉をかけてあげるべきだと思います。みんな自信を持って自分の手で未来を切り拓けるようになってほしいです。
- 子供のちょっとした挫折してしまった出来事も、何故嫌になってしまったのか、きちんと子供と向き合って話すようにする。
- 嫌になって投げ出したことを責めるのではなく、自分自身で考えて諦めたという実績を作る事によって、1つ1つの物事を真剣に考えるようになると思う。
- 学校での様子を拝見した際等、子供たちの言葉遣いが気になりました。我が子も含め、全体的に言葉遣いは良くないと感じます。友だちの名前を呼ぶ際にも呼び捨てでした。「あったか言葉」を使うような取り組みの一つとして、名前を呼ぶ際の呼び捨ても意識させるといいのかなと感じます。また、上の学年の子どもたちがよいお手本となってくれることを望みます。
- 場面にあった言葉使い、人様に迷惑をかけてはいけないなど、一般的要素はこれまで通りご指導いただきたい（相手を慮る気持ち、人格形成）。また、これからの時代を鑑み、義務教育ではあるが、できるだけ型にはめた教育というよりは、自身の興味や価値観にハマるものには、積極的に阻害せずチャレンジさせて頂きたい。とにかく、学校を嫌いにならず楽しい生活を続けられること、子供が学校へ行きたい環境づくりを引き続きお願いできれば幸いです。
- ゲームの影響で言葉使いが荒く乱暴になってる子供たちがいます。兄弟、友達、家族に対しても、乱暴な言葉使いで周りが不快がある事を理解出来る授業を取り入れてほしいと思います。
- 高学年になってきて、人の気持を考えて発言するようになってほしいです。相手の立場になって考えた時の気持ちや自分が言われたり、されたりした場合どう思うか等・・・。家庭の中でも常に声がけしています。

- ①異学年交流→異学年交流をしていくと顔見知りになり、コミュニケーションもとりやすくなっていくし、お互いに良いと思います。通学→今は集団登校がないので、一人登校、帰りを見かけますが、交流を通して、同じ方向の子がいれば、声かけのきっかけになると感じます。②同じ目標を達成するにしても、指示されての行動ではなく、自分たちで考えて行動できるように、意見を言える場を作り、経過や感想（窮屈にならない程度に）を聞けるようにすると良いと思います。③子供達を育成していく上で、先生方同士のコミュニケーションも重要と思います。④本年度のように校長先生、教頭先生が、現場で子供達に触れ合っただけの環境が良いなと感じています。校長先生をはじめ、子供達に関わって頂いている皆様に感謝申し上げます。
- キレやすい子供達がふえています。家庭、友達など色々あると思います。コミュニケーションが持てれば、良い方向にいくと思います。コミュニケーション力の教育に力を入れてほしいと思います。
- DISC理論を参考にさせていただけると良いと思います。性格診断、分析を行うことで児童の性格、行動傾向をパターンごとに分類できます。適切な褒め方や叱り方も的確に行えて、コミュニケーションの取り方も把握できるかと思います。
- 遅刻に対しての指導をもっとしていただけると有り難いです。通知票に遅刻の表記や先生からのお叱り希望です。評定の面や社会人になった時のためにも宜しく願いいたします。
- 1人に対してクラス全員で1つずつ「良いと思うこと」を書いて渡す。書く方は改めて1人1人のことを考える時間になるし、もらった本人はみんなに認められていることで自信につながり、また友だちのことも認めることにつながるのではないかと思います。
- 先生方は上手に褒めてくれ、友達の良いところを評価しあえる取り組みを感じます。子供たちの要望にも応えてくれ、信頼関係ができていようなので、このまま続けていただけたら満足です。

## 【地 域】

- コロナが落ち着いたら、地域、保護者、子どもたちと交わる機会をもっと増えたらいいと思います。子どもたちは関わって笑って褒めてあげると自然とあったかくなっていくと思います。
- 来年こそは地域と共に大運動会ができれば良い。
- コロナにより子どもたちに直接関わる機会が少なく残念です。子どもは地域の中で社会性を身に付け自己肯定感を育てていくことが望ましいと考えますので、地域との関わる機会を大事にし、地域も見守っていききたいものです。その意味からも今年度の折立ふれあいまつりへの参加は良かったと思います。先生方も積極的に参加出演していただけたことは良かったと思います。特に3年生の担任の先生の歌はすばらしかったですね。このようなことで学校に対する地域の信頼も益々高まっていくでしょうし、地域からの協力も得やすくなることでしょう。コロナで難しい面もあると思いますが、これからも地域に開かれた学校としてWin-Winの関係づくりを期待いたします
- コロナ禍で中止となっていました幼稚園と小学校の活動の連携を通して園児と関わり合うなどにて思いやりや小さな子どもへの声掛けのきっかけになるのではと思います。ぜひ小学校との連携を再開できたらと考えています。
- 通学路等を時々私自身巡回していますが、昨年度は児童の中に挨拶がうまくできない児童がおりましたが、今年度はその児童が大変大きな声で挨拶が返ってきます。大変うれしく思っております。
- いつも学校に行くときの学年でも挨拶してくれるし、かかわった子は話しかけてくれてうれしく感じています。
- 挨拶の指導を。こちらから「おはようございます」と声を掛けても返事しないことあり。目上の人には「おはようございます」と返すこと。こちらが「おはようございます」と声を掛けての返事が「おはよう」でした。時間を聞いてくるとき、「今、何時？」などの聞き方。その後の「ありがとう」の言葉もないことあり。
- 横断歩道で子どもたちに車を停めて歩行を優先してあげたら、笑顔で挨拶されてうれしい気持ちになりました。
- 昔遊びの会へ参加させていただいた時に、「教えてくれてありがとう」と言ってもらったこと。
- (町内の落ち葉清掃の際)「手伝います。」と言ってくれました。さつき台町内会の子どもたちは、ほぼ全員町内朝清掃に参加してくれています。草とりや花植えをお手伝いしてくれます。
- スクールサポートで「お掃除いつもありがとうございます!」「頑張ってください!」等、子どもたちから挨拶をもらおうと、心があたたかくなります。
- 交通安全で立哨していて、寒い日に、「いつもご苦労様です」「ありがとうございます」の言葉に温かさをすごく感じます。
- ゼミ生が発表した劇「ぐりとぐら」で、「こんなに上手な絵を描いてくれてありがとう」「私も描いてみたい」と子どもから感謝の言葉をもらいました。
- 先日ポストから新聞を取っていたら、「おばちゃん、足、大丈夫?」と言われて大変すくわれました。
- エプロン先生で関わった子どもたちへ会ったり、孫の友達に「〇〇ちゃんのおばあちゃん、久しぶりです」と言われそこで話をしたりする。「覚えてきているんだ」とうれしくなります。
- エプロン先生で入っているとき、「次はいつ来てくれるの?」と楽しみにしてくれていることを知れたときうれしく思います。
- これまで同様、基本的な挨拶プラスあったか言葉を学校・地域で使っていく。また、目の前の一人を大切に、相手の目線で接していくことで、更に良さを引き出せるのではないかと思います。そのような大人の一人になりたいと思います。
- 校長室に子どもたちが出入りをして校長先生と一緒に遊んでいるのを見て感動しています。すばらしい教育法だなあと感じます。今まで聞いたことも見たこともなかったのでとても良いことだとうれしく思います。
- 平素からの丁寧な指導を、校長先生をはじめ教職員の方々が協力して行っていることが、子どものよりよい育成につながっていると感じます。
- 子どもたちに見本を見せたいと日々思っておりますが、子どもたちから元気をいただいて先生方のご苦労に大変感謝しております。